

滝つぼにイワナがやってきました。



水がおさまると、ガマは滝つぼをのぞきました。
イワナのすがたはどこにもありません。

ガマは滝をみあげ、イワナは大あらしの日にのぼったにちがいないとおもいました。



なん日も、天からおちてくる滝を、ガマはみていました。イワナのすがたが、目にうかんできました。
そして、いつかイワナのいつていたことをおもいだしました。

——滝の上からだれかがよんでいる。あたらしい自分にであうんだ。

ガマは耳をすませてみました。

なにもきこえません。ただ、イワナの声がおもいだされて、それが心のなかでポツともえたちました。